

「進行期肺癌治療患者に対する患者自己式による主観的包括的栄養評価スコアリングの前悪液質の評価ツールとしての臨床的有用性についての検討 後ろ向き横断的研究」について

1. 研究の対象

2022年2月から同年8月末日までの間に当院呼吸器内科に肺癌治療のため入院となった患者さん

2. 研究目的・方法

癌患者さんでは、悪性腫瘍により身体に取り入れられた食物を代謝して糖として消費したり蓄えたりするはらたき(糖代謝)の過剰な進行やサイトカインと呼ばれる炎症を起こす物質の産生の増加によるタンパク質が減少、骨格筋の減少などの症状が起こります。この病状は悪液質と呼ばれ、進行した消耗性の病態を示していることが知られています。治療の反応性が低下し、合併症が起こりやすくなるなどの要因で予後がわるくなることが知られています。この悪液質は前段階を含めると癌患者さんの80%に認められることが推定されており、早期の段階で栄養療法、運動療法、心理療法、薬物療法によるさまざまな方法を併用して治療を行うことが重要と考えられます。しかし、悪液質の診断や基準が示されているガイドライン European Palliative Care Research Collaborative (EPCRC)には前悪液質の基準は明記されておらず、早期に治療介入を行うべき前悪液質患者さんを抽出するための栄養評価ツールが必要と考えられます。癌を治療する際に、栄養状態について確認する手段として栄養評価ツールというスコアシートが使用されます。その中で患者さんに分かる範囲で質問に答えていただくアンケート用紙と簡単な診察のみで算出できる：自記式による主観的包括的評価(Patient-Generated Subjective Global Assessment; PG-SGA)を用いることで、簡単に栄養評価を行うことができ、実臨床では広く使用されています。近年、このPG-SGAスコアリングの値と放射線肺炎患者さんやがん悪液質の患者さんの発症を予測することができる可能性があることが報告されてきています。しかしながら、肺癌における栄養状態の評価の重要性が高まってきている一方で、悪液質を合併した肺癌患者さんにおけるPG-SGAスコアリングの評価についての報告は少なく、臨床的な意義についてはまだよくわかっていないのが現状です。

今回の研究では、対象患者さんの過去の電子カルテの情報を用いPG-SGAスコアリングを算出します。栄養状態と悪液質を合併した肺癌患者さんの病状や治療、採血結果を解析し、それらの関係性を検討します。

研究期間は病院長許可日から2023年12月31日です。

3. 研究に用いる情報の種類

情報

- ・ 患者背景：性別、年齢 身長 体重 BMI Performance status
- ・ 血液学的検査：Hb

・血液生化学検査：、Alb、CRP

PG-SGA スコア³⁾を算出

病歴、抗がん剤治療の治療歴、肺癌病理組織所見 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

静岡県磐田市大久保医 512-3 磐田市立総合病院

研究責任者 呼吸器内科 原田 雅教

電話：0538-38-5000